

3:1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

3:2 すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しい門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。

3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。

3:4 ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。

3:5 彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。

3:6 すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

3:7 そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、

3:8 躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。

3:9 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。

3:10 そしてそれが、宮の美しい門のところでは、施しを求めて座っていた人だと分かると、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

イエス様が行った癒しや悪霊追い出しのなどの奇跡は、イザヤ書などに預言されたメシヤであることを表します。「聖書が実現するためであった」とあることから分かります。一方使徒の働きにおける奇跡は、宣教の中で神様がどのように働かれたか、またはこれから働いてくださるのかを明らかにし

ています。ですからここでも、単に癒されたから信じたということ以上に大切な神様のみこころがあります。

ここでは宮にいつもいながら癒されない人が、イエスの名によって癒されたということが記されています。宮はイスラエルの救いの象徴ですが、それはあくまでも神ご自身あつてのことです。主はイエスの権威によって宣教する人々に力を表されるのです。クリスチャン自身が神の存在を表す宮であると、パウロも書いています。

ペテロとヨハネは「金銀は」と明言しています。教会も、また指導者も人に物質的なものを与えることは本来の目的ではありません。神様のみわざによって、人々が救われて神を賛美するようになることです。

しかし、この男が求めていた「何かもらえる」という以上の恵みを、神様が与えたという事実も見逃せません。神様の福音は、神様の愛とともに伝わるのです。それは時に、伝える私たちの行いを通して表されます。

また「イエス・キリストの名によって」ということも重要です。神という名前なら他にも偶像に使っています。イエスすなわち人となって人類の罪を負ってくださった神こそが真の神なのです。

そして癒された者はただ喜ぶだけでなく、弟子たちとともに行動するのです。そして神を賛美し人々にその証しをするのです。救いとは、救われてよかったで終わるものではなく、そのようなものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

